

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	120人	算数	120人	理科	120人
第5学年	国語	140人	算数	140人	理科	140人

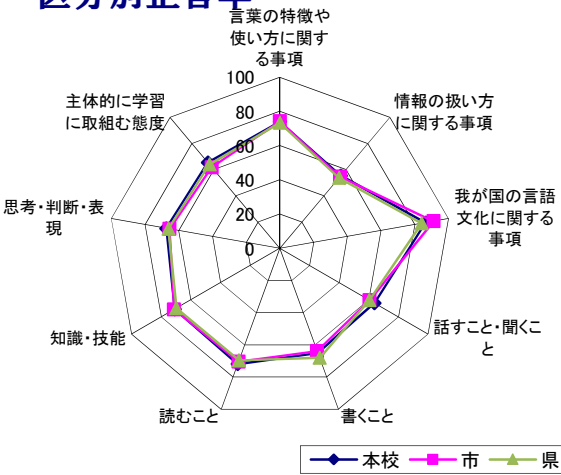
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.0	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	55.5	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	86.4	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	63.9	60.6	60.4
	書くこと	65.0	63.8	68.0
	読むこと	71.9	70.4	69.6
観点	知識・技能	70.9	71.3	69.9
	思考・判断・表現	67.4	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	65.4	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

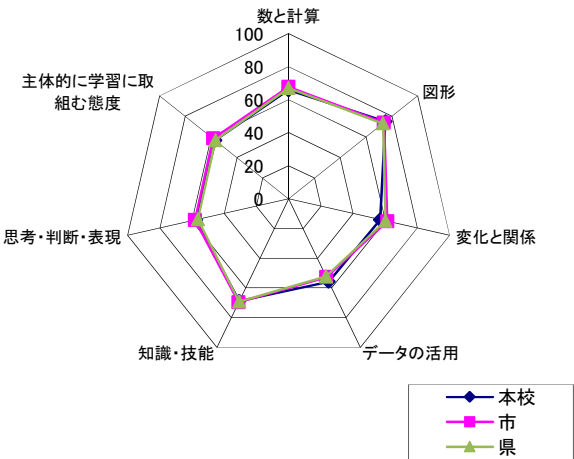
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○学校生活の中で児童がよく使用する言葉に関する読み、書きの問題は、よくできていた。 ●文の構成では、修飾語と被修飾語が離れている場合の理解の平均正答率が県よりも上回ってはいたものの、市よりは低い正答率となった。	・新出漢字だけでなく、既習の漢字も読み方が異なる使い方で繰り返し練習させたり、意味を調べさせたりすることにより文として使いこなせるようにする。 ・主語、述語、修飾語を使った文の構成について復習し、短文作りなどを通して、修飾語、被修飾語についての理解を深める。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は県、市の平均とほぼ同じである。 ○情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げて話す問題がよくできていた。普段からスピーチなどで話し方の指導を行ってきた成果であると考えられる。 ●漢字辞典を普段から授業で活用させていくことが必要であると考ええる。	・説明文の内容をよく読み取り、情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉えたり、理由や事例などを挙げながら話したりできるよう、読み取り方や話し方を継続して指導する。 ・漢字辞典を日常的に活用できるように手元に置いたり、児童が進んで活用したりすることができるように位置付ける。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は市の平均をやや下回っている。 ○ことわざに興味をもって調べたり使ったりすることは普段から意欲的に取り組んでいるためその成果であると考えられる。 ●知っていることわざを日常的に使ったり、共有したりすることができるように継続して指導していく。	・今後も、自主学習などで調べてきた児童を称賛するなど意識を高めていきたい。 ・我が国の言語文化に親しみがもてるよう読書と関連付けるなどして、指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県、市の平均をやや上回っている。 ○話し方の工夫を捉えて聞き取ることは、県や市の平均正答率よりもやや高くなっており、学習の中で対話的な学習を行ってきた成果であると考えられる。 ●話し手が伝えたいことを読み取ることは、今後も継続して力を入れて指導していく必要がある。	・意見を述べるときに、相手を意識して分かりやすい伝え方を工夫したり、理由をつけて話すことを継続して指導する。 ・話し合う活動を多く取り入れ、相手の意見をよく聞き、自分の意見との相違点を考えながら話し合いが進められるように意識付けしていく。
書くこと	平均正答率は県、市の平均とほぼ同じである。 ○指定された長さで文章を書いたり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書く問題の正答率は7割程度だった。学習の中で自分の考えをまとめる活動を取り入れてきたため、書く力がついてきたものと考えられる。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題が県の平均より下回っているため今後も指導が必要である。	・学習のまとめや振り返りを通して、自分の考えをまとめる活動を積み重ねることにより、自信をもって文章を書くことができるようにする。 ・読むことの指導を通して情報を読み取る力を向上するとともに、読み取ったことの内容についてどのように段落を分けて文章にしたらよいかを具体的に例示しながら書く練習を行う。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○物語の場面の様子や登場人物の気持ちをそれぞれに読み取ったり、文章を読んで感じたことや考えたことを共有することは県の平均より上回り、よくできている。 ●場面の移り変わりと結び付けて読み取ることは全体からするとやや低くなっている。	・読書の時間を充実させたり、新聞記事や資料等を読む機会を設けたりして、読解力の向上を図る。 ・説明文を読み取る際には、主語、述語、接続語等を意識させたり、キーワードとなる言葉に着目させたりすることにより、段落の内容やまとめ、場面の移り変わりを把握できるように指導する。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.9	67.8	67.0
	図形	75.0	73.9	73.1
	変化と関係	56.9	61.4	60.2
	データの活用	55.7	52.7	52.1
観点	知識・技能	68.8	69.7	69.2
	思考・判断・表現	57.7	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	56.8	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

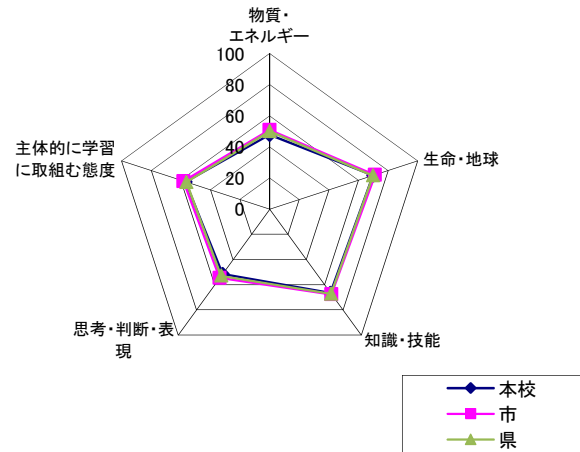
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○割り算の計算をする設問については、市の平均正答率を上回っており、計算のきまりや方法を理解し、正確に商を求めることができることを示した。 ●「億と兆・概数の表し方」の設問については、県と市の平均正答率を下回る結果となった。	・今後も更なる計算力の向上を図るため、計算のきまりや方法についての指導を丁寧に行い、確実に定着させた上で、反復練習を継続的に行わせていく。 ・概数についての既習事項を振り返り、改めて意味や表し方について指導することで理解させ、概数を扱った多様な問題に取り組ませていく。
図形	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○「角の大きさ」の設問については、市の平均正答率を上回っており、特に、180°より大きい角の大きさの求め方を理解していることを示した。 ●図形のきまりや性質についての設問についての平均正答率は、市や県とほぼ同じだが、「ひし形の作図」の設問については、県と市の平均正答率を大きく下回っていることから、正確に作図することに課題が見られる。	・高学年で多角形の角の大きさを求める学習に入る前に、改めて既習事項を振り返らせることで、それらを応用しながら取り組めるようにする。 ・図形のきまりや性質から、作図の方法を考える問題を繰り返し行い、技能を定着させることで、5年で学習する「合同な図形」の作図にも応用できるようにする。 ・正確に作図ができるよう、コンパスや定規などの使い方について復習する。
変化と関係	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す設問については、県と市の平均正答率を下回っており、課題が見られる。 ●式や言葉を用いて考え方を説明する設問の正答率が低い。	・普段の授業の中で、問題文から読み取ったことを自分のノートに表や図、数直線などに表して、2つの数量の関係を視覚化できるよう指導していく。 ・ノートに自分の考えをまとめたり、友達に説明したりする活動を多くを取り入れ、自分の考えを説明する力を身に付けることができるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○2次元表を読み取る設問については、市の平均正答率を5ポイント以上、上回っている。 ●グラフから読み取ったことを根拠に、理由を説明する設問の正答率については、他の設問に比べると正答率が低く、無解答率も高いため、児童が苦手意識を抱いていることが示されている。	・折れ線グラフや線グラフから読み取る問題を引き続き復習させることで、さらに技能を向上させ、発展問題として、読み取ったことを根拠に考えを説明する問題に取り組む機会を増やしていく。 ・自分の言葉でなかなか説明ができない児童に対しては、選択制や穴埋め式の問題などから組み合せ、段階的な指導を行っていく。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	47.8	50.8	50.0
	生命・地球	69.9	71.1	69.8
観点	知識・技能	66.5	67.6	67.2
	思考・判断・表現	51.5	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	56.9	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均と比べ、やや下回っている。 ○「物のあたたまり方」に関する問題では、選択・記述式を問わず正答率が県の平均正答率を上回っており、物質の温まり方について理解し、回答することができた。 ●「水のすがた」では、水の状態変化について回答したり、水が氷になるときの体積の変化について説明したりする問題で県の平均正答率を下回っている。水の状態変化についての理解に課題がある。 ●「電気のはたらき」では、乾電池の向きから電流の流れる向きを読み取ったり、直列回路と並列回路の電流の大きさについて比較したりする問題で県の平均正答率を下回っており、電気の性質についての理解に課題を残している。	・学習したことが十分に定着していない内容があると考えられる。そのため、授業の中で、これまでの学習を振り返る時間を設定し、学習内容の定着を図る。 ・授業で行った実験や観察の結果と生活の中で起こる自然現象を結び付けて説明することが難しかったと考えられる。導入で身近な自然現象を扱ったり、結果をもとに根拠を示しながら考察したりする授業を行っていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○「天気のようにと気温」では、一日の気温の変化を示したグラフを読み取り、晴れの日である理由を記述する問題で県の平均正答率を7.0ポイント上回り、晴れた日の気温の変化について理解し、回答することができた。 ●「月と星」では、星や月の見え方や動き方についての問題で県の平均正答率を下回っており、時間経過に伴う天体の動きについての理解に課題がある。 ●「1年間の植物の成長」では、ヘチマの茎の長さや気温の変化について示したグラフを読み取り、その関係について記述する問題で県の平均正答率を下回っており、植物の草丈と気温の変化の関係についての理解に課題がある。	・月や星の動きについては、授業の時間内に実際に目で見るのが困難であり、実感を伴った理解が難しかったと考えられる。模型や映像資料等を活用したり、児童の日常生活と結び付けたりしながら授業を行っていく。 ・記述式の問題の正答率が全体的に低いことから、根拠のもとに説明する力が十分についていないと考えられる。根拠となる基本的な学習内容の復習を取り入れるとともに、実験や観察の結果がなぜそうなるのか説明する機会を設ける。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童の割合は82.8%で8割を超えており、「授業では、自分の考えを話す機会が与えられている」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」と回答した児童の割合も県と市の平均を上回っている。自分の考えを説明したり少人数で話し合ったりする活動を効果的に取り入れる授業づくりを行ったことにより、効果が表れている。今後は、一人一人の意見をつなぐコーディネートに留意した話し合いの充実に努めたい。	
○授業では、「授業の中で目標が示されている」と回答している児童の割合は90.0%で市や県の平均とほぼ同じである。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめが書いている」と回答した児童の割合は市や県の平均を上回っている。学校全体で取り組んでいる主体的に学びに向かうための手立てとして行われていることが定着しつつあると考えられる。今後も意識して継続していきたい。	
○家庭生活では、「家の人と学校でのできごとについて話をしている」と回答した児童の割合は84.3%で市や県の平均とほぼ同じである。「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「家でのかまりや約束を守っている」と回答した児童の割合は、市や県の平均を上回っている。しかし、「毎日、朝食を食べている」「早寝、早起きを心がけている」「家の人と学習について話をしている」では肯定的ではない児童もあり、課題が見られる。	
●「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」と回答した児童の割合は90.0%で市や県の平均とほぼ同じであるが、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と回答した児童は57.1%で市や県の平均をやや下回っている。委員会や係での活動が、みんなのために役立っていると感じられる場を設定していきたい。	
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童は6割程度、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に対して苦手と回答した児童は5割程度と課題が見られる。書く活動においては、個人差に応じた手立てを示しながら積み重ねを重視し、授業での個人やグループによる発表の機会を増やし、様々な考えを提示しながら、共に学び合うことができるような学習の場の工夫に取り組んでいきたい。	
●家庭学習では、98.6%の児童が「家で学校の宿題をしている」、93.5%の児童が「学校の宿題は、自分のためになっている」と答えている。しかし、「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」「家で、テストの間違った問題について勉強している」と回答した児童の割合は、県や市の平均を下回っている。全体として家庭学習の習慣化が図られていないので、家庭学習の時間や方法・内容など個人差に応じたアドバイスや家庭との連携を図りながら、児童が主体的に家庭学習に取り組めるようにする指導に努めていきたい。	

宇都宮市立横川東小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	・「朝一学習」(月・水・金:読書, 火:国語, 木:算数)の実施。 ・学期ごとの漢字計算オリンピックの実施。 ・パワーアップシート等の復習用教材の効果的な活用。	4年生, 5年生の3教科の基礎分野の平均正答率は、市と比べてほぼ同じだった。
・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善	・主体的対話的で深い学びの達成のための「めあてや見通し, 見方・考え方, 振り返り」などの授業改善の視点の共通理解と実践, 計画的な校内研修の実施。	・学習と生活のアンケートから、学習に対して「自分から進んで取り組んでいる」と答えた児童の割合は、4年生で74.5%, 5年生で67.1%と学年間で差がある。 ・「授業の中で目標が示されている」は、4年生で83%, 5年生で90%で市とほぼ同じである。 ・「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」と答えた児童の割合は、4年生で74.6%, 5年生で87.9%と市と比べて高い
・思考力・判断力・表現力の育成	・自分の考えを書く活動の習慣化と自分の考えをもたせるための支援 ・ペアやグループ, 全体での学び合いの場の設定の工夫	・「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と答えた児童の割合は約6割に上る。また、「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを広げたり深めたりすることができている」と答えた児童の割合は、4年生で73.7%, 5年生で77.1%であった。
・家庭学習の習慣化	・本校独自の「家庭学習の手引き」を活用した、発達段階に応じた適切な課題や量の調整と計画的な家庭学習の推進。	「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答の割合は、両学年で9割を超えるなど高い。しかし、「家で自分で計画を立てて、勉強している」の肯定的回答の割合は、約7割であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・調べたことを文章にまとめる問題の正答率が約4割と低く、無回答率も高い。	・文章や問題文の意図を適切に読み取る読解力の育成	・読書活動の推進 ・国語「説明文」の系統的な指導 ・文章を読み、考えを書く活動の充実